

## 「称名念仏とは」

浅野 淑子

私は、お寺に嫁いで今年でちょうど20年になります。嫁いだ当時は、義理の父が住職をやっており、義理の母が坊守でした。

私の実家は、郡上で呉服屋をやっております。浄土真宗の門徒で、祖母は信仰心が篤く、毎日お内仏に向かって手を合わせ、正信偈のお勤めをしておりました。私は子どものころ、三姉妹でよく祖母に付き合わされて正座し、「長いなあ、早く終わらないかなあ」と思いながら、正信偈を読んでおりました。

そのように「南無阿弥陀仏」を称える生活はわりと身近にあったのですが、実家が大谷派であることを、私は結婚するまで知りませんでした。そんな私がお寺に入ることになったのですが、お寺の行事や門徒さんとの付き合いの中で勝手が分からず、最初は右往左往しておりました。その後大垣真宗学院で3年間学ばせていただき、頭の中では浄土真宗の教えや歴史を理解できた気がしておりましたが、浄土真宗の教えの中で生きるという意味が見つけられませんでした。

そんな中、義理の父が私に、「一生かけて念仏を称える者になればいい。死ぬまでに親鸞聖人のお弟子になればいい」と言ってくださいました。

称名念仏は、すべての人々を迷いの苦しみから平等に救いたいという阿弥陀仏の本願のはたらきであると言われていています。毎日の生活の中で、迷いや問題は尽きません。そんな中、念仏によって私たちは真の光に照らされ、命を生きるよう願われているのです。

念仏成仏じょうぶつこれ真宗  
万行諸善まんぎょうしよぜんこれ仮門けもん  
権実真仮ごんじつしんけをわかずして  
自然の浄土じねん じょうどをえぞしらぬ

と、親鸞聖人は『浄土和讃』の中で、私たちの愚かさおろに気づかせてくださっています。

「南無阿弥陀仏」と称えることは、私の想いを超えた阿弥陀仏の計り知れない命をいただいている我が身の尊さに、日々気付かせていただくことだと思えます。